

床上浸水で家を解体した人も 支援なし

台風19号被害

置き去りの 2000世帯～「一部損壊」判定

昨年の台風19号で被災した「一部損壊」の2000世帯は、いまだ支援がないままです。庄司あかり議員は、解決の道すじを示しました。

庄司議員「2階建ての1階すべてが浸水しても、そもそも床の構成割合が全体の10%しかないので、損傷率は1%にしかならない。損害割合20%未満が『一部損壊』なので、多くの浸水住宅が一部損壊の判定になっている。国の通知では『床上浸水等の被害の状況に応じ、被災者生活再建支援法を積極的に活用されたい』『床材、壁材、断熱材などは一度浸水すると、本来の機能を損失し、または通常求められる住居の快適性を著しく阻害する場合がある』

と判定にあたっての留意を求めている。こうした点は、再調査を通じてり災判定に反映すべきだ」
財政局「り災判定は、国の運用指針に基づいて適切に実施した」



床上浸水で、家に住めなくなったが...

庄司議員「床上浸水し水まわりも使えなくなり、解体を余儀なくされた住宅がある。しかし、そうした住宅であっても多くが一部損壊だ。国の通知では

『畳が浸水し、壁の全面が膨張しており、さらに浴槽などの水まわりの衛生設備等についても機能を損失している場合には、一般的に大規模半壊または全壊に該当することも考えられる』

と。通知のとおりであれば、大規模半壊以上になるのではないかと

財政局「内閣府に確認したら、畳の浸水がみられれば、必ず大規模半壊となるものではないということだった」

被害に見合った 判定基準に

庄司議員「り災判定は、その後の被災者支援の内容に大きな影響を与える。浸水被害に見合った認定基準の緩和、および生活再建支援金の支援対象を拡大することが必要だ」

健康福祉局長「国に、浸水被害の実態に応じた認定基準の緩和、被災者生活再建支援制度の給付対象の拡大を求めている」

庄司議員「一部損壊は、応急仮設や被災者生活再建支援制度も申し込みない。自治体の独自支援で一部損壊の被災者の住宅再建を後押しすることが必要だ」



街路灯の電気料金過払い・不払い

引込柱の番号ズレが原因のひとつ

庄司議員「この問題は、実効性ある再発防止策がつけられてこそ、区切りがつくものと考え。市の報告では、過払い・不払いの発生要因の一つとして、現地の引込柱（電気を供給する電柱）の番号と電力契約上の引込柱番号とが一致していない事例があったとしている。区役所からの聞き取りでは、現場に実在する街路灯の容量変更を東北電力に申し込んだところ『契約はない』と言われ、新規契約を求められたことがあったと聞いた。まさにそうやって、契約が二重になるのだと思われる。

この番号のずれについて、東北電力は『道路拡張、電柱移設で引込柱番号が変わることがあるが、仙台市はそれが多く』と説

明している。引込柱番号が変わることを仙台市は知っていたのか」

建設局「認識は、薄かった。東北電力から逐一報告されることは、なかった」

庄司議員「引込柱番号が変更になった際には、東北電力から教えてもらい、その都度、市の街路灯台帳に反映する仕組みが必要だ」

建設局「年に1回以上、照らし合わせ確認する」

庄司議員「福岡市では『照明灯を廃止した場合は、廃止の確認を電力会社へ行う（電気料金の請求が継続される可能性があるため）』『照明灯を移設した場合は、旧照明灯をいったん廃止し、新たに照明灯の設置手続きを行う（新旧の電気料金の二重請求の可能性があるので）』としている。本市でこうしたマニュアルを作成すべきだ」

江戸時代～近代の運河跡地

御舟入堀

おふないりぼり

蒲生北部土地区画整理事業地内

津波被災地・蒲生で進められている「蒲生北部復興土地区画整理事業」。造成地内は、埋蔵文化財が豊富です。江戸時代から近代まで使われていた運河「御舟入堀」もそのひとつです。寛文13年(1673年)に完成。貞山運河の一部として、仙台城下へ物資を運んでいました。保存を求める市民運動も活発です。高見のり子議員が取り上げました。



発掘された船溜まりの石積み (明治初期に建造) 撮影/高見のり子

米や塩を 城下に運んだ いにしへの営み

高見議員「2016年に発掘調査が行われている」
教育局「御舟入堀は、江戸時代から明治はじめまでの物資輸送の遺跡だ。船溜まりや御蔵は、舟で運ばれてきた米や塩を仙台城下に搬入するため一時保管・荷揚げする施設で、江戸時代1670年につくられた。発掘調査では、明治時代の石積み、荷札と考えられる木簡などが発見されている」

高見議員「仙台藩物流の歴史を物語る重要な土木遺産だ。運河跡地の保存・活用については、様々な個人、団体が要望を出している」
都市整備局「高砂中高生の会や蒲生のまちづくりを考える会をはじめ18団体から保存・公園整備などの要望をいただいている」

高見議員「これら要望を受け、市は、この街区を売却せず市所有とした。文化財は、そのまま埋められ保存され、土地の活用が期待された。ところが、市は土地の約3分の1を今年度と新年度、4億6,500万円かけて高砂コンテナターミナルサブヤードとして貸し出す予定だ。新年度7月から貸付が始まる。残りの3分の2の使い方は協議中とのことだ。土地を公園にし、400年の物流の歴史に触れる場所にすれば、貴重な観光資源になる」

経済局「物流機能の強化に生かしたい」

高見議員「文化財を埋めたままで、どうやって活用するとか。企業の利益を優先したのでは、歴史も文化も守れない」



保存を!

予算審査委員会
高見のり子議員

蒲生の自然、文化を未来へ

高見議員「蒲生地区は、廃棄物処理場やバイオマス発電所の立地も可能となった。区画内には大型バイオマス発電所が計画され、近接して石炭火力発電所の仙台パワーステーションが稼働中で、さらにバイオマス発電の高松発電所も計画されている。二重三重の複合汚染が心配される。この地区の隣には、国指定の鳥獣特別保護地区・蒲生干潟があり、渡り鳥の渡来地、貴重な動植物が生息する自然の宝庫となっている。南蒲生、新浜地区の砂浜海岸工

コトーンと連続する海岸は、世界に誇れる自然であり、これを子どもたちに残していく責務は、仙台市にある。貞山運河を含めた埋蔵文化財を生かした歴史と文化の交流の場にすることも可能だ。未来の蒲生のまちづくりについて、ワークショップやラウンドテーブルなど行ってはどうか」

郡和子市長「歴史や史跡を有効に保存しながら、この地の事業を進める」

新着
ニュース

JR福田町駅のバリアフリー化

駅移設を基本に検討が確認されました。

JR東日本と仙台市は2月28日、福田町駅のバリアフリー化のため、同駅の移設を基本とすることが確認されました。高見のり子議員は2月19日、市議会一般質問で駅移設計画をいっくも早く進めるよう要求。市は「早期に実現できるよう取り組む」と答えていました。基本設計1500万円、実施設計3300万円です。タクシー乗り場、駐輪場の設置など。移設場所は、検討中とのこと。